

講習の名称：図工・美術科教育における絵画制作を考える

担当講師：喜多村 徹雄（教育学部准教授）

講習開講日：令和2年8月21日（金）

時間数：6時間

主な受講対象者：小・中・高 図工・美術担当教諭

キーワード：絵画、現代美術、図画工作科・美術科教育、鑑賞

講習の概要：

図工・美術科教育において、「絵に表す」・「絵」の内容は広く実践されているが、題材のなかには旧態のものを定式化してなぞっている現状も見受けられる。本講習では、学校教育のなかで児童・生徒が表現することの意味を「感じること」と「描くこと」から捉えることで、題材の価値を再考察したい。そこから導かれる子どもの姿を考えることは、図工・美術科を担当するに際して役立つと考えます。

講習の展開：

- 第1時限 線と色彩を通した「感じること」の考察（実践・考察）
- 第2時限 「描くこと」を通した協同の考察（実践・考察）
- 第3時限 「絵に表す」と「絵に表現する」活動を通して考える（考察）
- 第4時限 絵画制作を通した図工・美術科教育への展開を検討する（実践・考察）

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：

19世紀末から20世紀中葉にかけて展開した美術運動を知っていることが望ましい。

授業の形式：講義及び演習 簡単な描画活動（ドローイング）を行います。

履修認定試験：論述形式による筆記試験（ノートなど資料の持ち込み可）。講習の内容を踏まえ、絵に表すことを通した学びに対する考察を求める。

テキスト・参考文献：

特に設けない。

持ち物：本講習では簡単な描画活動を行います。靴を脱いで行いますので適した服装で受講して下さい。水溶性絵の具（水彩絵の具、アクリル絵の具）、筆、パレット、筆洗器、雑巾などは各自で持参ください。